

# 阪神高速事業アドバイザー会議 〔第10回〕

## 「2019年度決算報告」

2020年10月16日  
阪神高速道路株式会社

1. 2019年度決算概要	.....	3
2. 中期経営計画2017～2019の達成状況 (阪神高速グループCSRレポート2020より)	.....	7

## 当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 3,702億円（前年同期比+1,395億円）、営業利益 15億円（前年同期は営業損失4億円）、経常利益 21億円（前年同期比+14億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は 13億円（前年同期比▲21億円）となりました。  
事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

### 高速道路事業

- ◆料金収入は1,781億円（前年同期比5.1%減）  
※8号京都線を京都市及び西日本高速道路株式会社に移管した影響並びに新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により前年度を下回りました。
- ◆道路資産完成高は1,808億円（前年同期比420.6%増）  
※6号大和川線（鉄砲～三宅西）開通の影響等により前年度を大きく上回りました。
- ◆道路資産賃借料は1,375億円（前年同期比5.3%減）
- ◆管理費用は407億円（前年同期比7.7%減）
- ◆この結果、  
営業収益は3,597億円（前年同期比61.1%増）  
営業費用は3,592億円（前年同期比60.0%増）  
営業利益は4億円（前年同期は営業損失12億円）  
となりました。

### 受託事業

- ◆国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、  
営業収益は57億円（前年同期比200.5%増）  
営業費用は56億円（前年同期比187.8%増）
- ◆この結果、営業利益は1億円  
（前年同期は営業損失30百万円）となりました。

### その他の事業

- ◆休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業等を展開したことにより、  
営業収益は50億円（前年同期比11.5%減）  
営業費用は40億円（前年同期比15.6%減）
- ◆この結果、営業利益は9億円  
（前年同期比12.2%増）となりました。

## 高速道路事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2020年3月期	2019年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,781	1,877	▲ 95
	道路資産完成高 <sup>(注)</sup>	1,808	347	+1,461
	その他売上	6	7	▲ 1
		3,597	2,232	+1,364
営業費用	道路資産賃借料	1,375	1,452	▲ 76
	道路資産完成原価 <sup>(注)</sup>	1,808	350	+1,458
	管理費用	407	441	▲ 34
		3,592	2,245	+1,347
高速道路事業 営業利益		4	▲ 12	+17

### 主な増減内容

#### ● 営業収益

・通行台数は、8号京都線の移管及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、前年同期比6.6%減の一日当たり約71.0万台

・料金収入は、前年同期比95億円減の1,781億円

・道路資産完成高は、6号大和川線（鉄砲～三宅西）開通の影響等により、前年同期比1,461億円増の1,808億円

#### ● 営業費用

・協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比76億円減の1,375億円

・管理費用は、前年同期比34億円減の407億円

※8号京都線の移管による影響等により、前年度を下回りました

(注)道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

## 関連事業

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2020年3月期	2019年3月期	増減
受託事業	営業収益	57	19	+38
	営業費用	56	19	+36
	営業利益	1	▲ 0	+1
その他の事業	営業収益	50	56	▲ 6
	営業費用	40	48	▲ 7
	営業利益	9	8	+1
関連事業 営業利益		11	8	+2

(注)関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業等を含んでおります。

### 主な増減内容

#### ●受託事業

大阪府道高速大和川線に係る工事出来高の増等により、営業収益は前年同期比38億円増の57億円、営業費用は前年同期比36億円増の56億円となり、営業利益は1億円（前年同期は営業損失30百万円）

#### ●その他の事業

営業収益は前年同期比6億円減の50億円、営業費用は前年同期比7億円減の40億円となり、営業利益は9億円（前年同期比1億円の増）

## 当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表			
区 分	2020年3月期	2019年3月期	増減
総資産	2,279	2,948	▲ 668
流動資産	1,737	2,436	▲ 698
（うち仕掛道路資産）	257	1,354	▲ 1,097
固定資産	541	512	+29
総負債	1,743	2,421	▲ 678
流動負債	691	1,013	▲ 322
固定負債	1,051	1,407	▲ 356
純資産	536	526	+9
株主資本	562	549	+13
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	357	343	+13
その他の包括利益累計額	▲ 26	▲ 23	▲ 3

連結損益計算書			
区 分	2020年3月期	2019年3月期	増減
営業収益	3,702	2,306	+1,395
営業費用	3,686	2,310	+1,375
営業利益	15	▲ 4	+20
営業外収益	5	11	▲ 5
営業外費用	0	0	+0
経常利益	21	6	+14
特別利益	0	31	▲ 31
特別損失	1	1	+0
税金等調整前当期純利益	19	36	▲ 17
法人税等	6	1	+4
親会社株主に帰属する 当期純利益	13	35	▲ 21

# 中期経営計画2017～2019の達成状況

2019年度は、重要テーマに則した事業活動によって、各施策を着実に進展させることができました。2020年度以降においても、これまでの進捗を踏まえたなかで新たな経営課題や社会のニーズに挑み、阪神高速グループビジョン2030「ありたい姿」の実現に向けて取り組んでまいります。

**重要テーマ 1**

	道路構造物の点検率			機能低下があり、対策を要する損傷の補修率 ※2	橋梁の耐震対策
	橋梁	トンネル	道路付属物		
2019年度	24%	-	20%	-	-
2019年度実績	24%	-	22%	100%	92%
2020年度	42%	19%	43%	100%	100% (2021年度末)

  

	交通事故件数 ※4	死傷事故率	逆走事案件数 ※5 ※6	人等の立入事案件数 ※4 ※7	道路照明LED化率
		1億台km (走行台数×走行距離) あたりの死傷事故件数			本線照明
2019年度	5,500件	17.3件/億台km	2件	300件	-
2019年度実績	4,714件	16.6件/億台km	5件	291件	46%
2020年度	4,600件	16.0件/億台km	2件	300件	48%

**重要テーマ 2**

	渋滞損失時間	路上工事による渋滞損失時間	通行止め時間 ※8
	渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間 (走行台数×時間)	本線渋滞損失時間×路上工事起因する渋滞量+全渋滞量、渋滞量=渋滞距離×渋滞時間	年間の平均通行止め時間 路線ごと(上下線別)の通行止め時間×距離+営業延長
2019年度	976万台・時	15万台・時	-
2019年度実績	906万台・時	21万台・時	35時間 (うち、工事関係16時間、G20大阪サミット関係17時間)
2020年度	940万台・時	25万台・時	-

  

	快適走行路面率	高性能舗装率	ジョイントレス実施率
	快適に走行できる舗装路面の車線延長+全車線延長	本線の排水性舗装および密粒ギャップ舗装+本線のアスファルト舗装	実施箇所+ジョイントレス化対象箇所 (100m区間にジョイント数が5以上ある箇所)
2019年度	96%	-	-
2019年度実績	96%	80%	12%
2020年度	97%	-	-

※1 2019年度から法令点検2巡目に入るため点検数および点検率は初期化 ※2 損傷の補修率=(当該年度における修繕完了件数)/(当該年度計画上の補修予定件数)(%)  
 ※3 兵庫県南部地震と同程度の地震においても軽微な損傷にとどまり、速やかな機能回復が可能な耐震対策が完了した橋脚 ※4 当社調べ ※5 警察庁調べ、1/1～12/31間の年間値  
 ※6 交通事故または車両確保に至った逆走事案 ※7 歩行者、自転車、原動機付自転車などが高速道路に立ち入り、保護した事案 ※8 雨、雪、事故に伴うもの

**重要テーマ 2**

	ミッシングリンクの解消		ETC利用		企画割引(乗り放題バス)	
	大和川線	西船場ジャンクション	ETC利用率 ETC無線通行台数+総通行台数	ETC2.0利用率 ETC2.0無線通行台数+総通行台数	実施日数	販売件数
2019年度	-	-	95.0%	22.3%	60日	186,000件
2019年度実績	2020年 3月29日開通	2020年 1月29日開通	95.7%	22.7%	61日	201,000件
2020年度	-	-	-	26.4%	-	-

**重要テーマ 4**

	関連事業の売上高(連結)	関連事業の営業利益(連結)
	2019年度	55億円以上
2019年度実績	50億円	9億円
2020年度	連結売上高 58億円	連結営業利益 8.5億円



泉大津パーキングエリア(陸側)

**重要テーマ 5**

	道路管理に起因するCO <sub>2</sub> 排出量	グリーン購入率 ※10	年間利用台数 ※11
	道路管理延長(km)あたりのCO <sub>2</sub> 排出量	グリーン購入適合+オフィス一括購入物品	
2019年度	150t-CO <sub>2</sub> /km	90%	2.65億台
2019年度実績	147t-CO <sub>2</sub> /km	94%	2.60億台
2020年度	-	100%	2.46億台

**重要テーマ 6**

	お客さま満足度 (5段階)	年間総労働時間	女性の育児休業取得率	採用者に占める女性の割合	女性管理職の人数
	2019年度	3.7点	2,000時間未満の継続	100%の継続	-
2019年度実績	3.8点	2,000時間未満の継続	100%の継続	31%	3名
2020年度	3.8点以上	-	-	-	-

※9 2022年度目標値  
 ※10 金額ベース  
 ※11 支払料金所における年間の通行台数